

いわて 復興 だより

がんばろう!岩手 つなごろう!岩手
第184号
令和4年度第1号



三陸復興

平成23年3月11日に東日本大震災津波が発生しました。発災以来、国内外から多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げ、この「つながり」を大切にし、復興のステージを更に前に進めていく岩手県の今を紹介します。

達成

東日本大震災津波伝承館 来館者数50万人達成

陸前高田市
RIKUZENTAKATA

令和4年4月30日(土)、東日本大震災津波伝承館の来館者数が50万人に達しました。

記念すべき50万人目の来館者となったのは、ゴールデンウィークを利用して北海道から訪れた小林弘典さん御一家で、藤澤修副館長や隣接する道の駅「高田松原」の熊谷正文駅長等から拍手で迎えられ、来館に対する御礼と県産米詰め合わせなどの記念品が贈られました。

令和元年9月に開館した伝承館は、新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休館に伴い来館者が減少した時期もありましたが、修学旅行や校外学習などの学校利用が増加するなど、県内外から世代を超えて多くの方々にご来館いただき、復興教育、防災教育の拠点として活用が広がっています。

東日本大震災津波発災から11年の月日が経過しましたが、伝承館では、記憶の風化を防ぎ、国内外の防災力の向上に貢献するため、これからも震災津波の事実と教訓を伝承し、復興の歩みと多くの支援への感謝を発信していきます。

■問い合わせ 東日本大震災津波伝承館
☎0192-47-4455



来館者50万人記念セレモニーの様子



来館者で賑わう館内の様子

支援

いわて被災者支援センター 開所1周年

釜石市
KAMAISHI盛岡市
MORIOKA

令和4年4月27日(水)、岩手県が東日本大震災津波の被災者の生活再建を支援する「いわて被災者支援センター」を釜石市に開所して1周年を迎えました。

センターでは、沿岸各地を始め、県内陸部や県外の被災者からの住宅ローン、家計の見直しといった経済面・生活面に関する相談に対し、専門家(弁護士、ファイナンシャルプランナー)や関係機関(市町村、社会福祉協議会など)と連携して、伴走型の支援を行っています。

当該センターは、釜石市のほか盛岡市にもサブセンターを設置していますので、お困りごとがありましたら、お気軽にご相談ください。

■問い合わせ
岩手県復興防災部復興くらし再建課
☎019-629-6926



ミーティングの様子

いわて被災者支援センター

場所：岩手県釜石市大町 2-4-7
☎ 0193-30-1034
☎ 080-9634-6650

サブセンター

場所：岩手県盛岡市材木町 3-5
☎ 019-601-7640

受付：月曜日～金曜日 9:00～17:00
(土日祝日、12/29～1/3を除く)

いわて被災者支援センター
についてはこちら➡



※当センターは、岩手県からの委託により認定特定非営利活動法人インクルいわてが運営しています。

育成

いわて水産アカデミー 第4期生が入講

沿岸全域
COASTAL WIDE

入講式に臨んだアカデミー第4期生

令和4年4月11日(月)、官民で本県漁業を担う人材を育成する「いわて水産アカデミー」(主催:いわて水産アカデミー運営協議会)の第4期生の入講式が、釜石市の岩手県水産技術センターで行われ、20代~40代の県内外出身者9人が入講しました。

入講者は、県内に居住しながら、1年間かけて基礎から漁業経営に必要な高度な知識や技術の習得に励み、研修終了後も引き続き、県内での漁業就業を目指します。

平成31年4月に始まった同アカデミーでは、これまでに20人が修了し、20人全員が県内で水産業に携わっています。

■問い合わせ 岩手県農林水産部水産振興課
☎019-629-5806

話題

宮古トラウトサーモン 今年初水揚げ

宮古市
MIYAKO

令和4年4月28日(木)、宮古湾で養殖しているトラウトサーモン(海で養殖したニジマス)が、宮古市魚市場に今年初めて水揚げされました。

秋サケやサンマなど主要魚種の不漁が続く中、宮古市や宮古漁協では、市場で取り扱う魚種の多様化を図るため、令和2年4月から「宮古トラウトサーモン」の出荷を始め、ブランド化に取り組んでいます。水揚げは7月中旬頃まで続き、市内外のスーパーや飲食店に並びます。

水産業の未来を切り拓く取組として、行政や漁協のほか、魚市場、買受人、小売業者、飲食店など地域一体となって、つくり育てる漁業を進めることとしています。

■問い合わせ 岩手県農林水産部水産振興課
☎019-629-5816



今年初水揚げされた宮古トラウトサーモン(写真提供:宮古市)

開催

三陸花火大会2022開催

陸前高田市
RIKUZENTAKATA

令和4年4月29日(金)、三陸花火大会2022 -SANRIKU Fireworks Festival- (主催:三陸花火競技大会実行委員会)が陸前高田市の高田松原運動公園で開催され、あいにくの雨模様ではありましたが、1万5,000発を超える色とりどりの花火が夜空を彩りました。

花火大会は、ロシアによる軍事侵攻を受けるウクライナに思いを寄せ、国旗と同じ青と黄色、鎮魂の願いを込めた白菊の1尺玉をそれぞれ打ち上げて午後7時にスタートしました。県内外から訪れた約5,000人の観客は、音楽に合わせて打ち上げられる「ミュージックスターメイン」など夜空を焦がす大輪の数々に酔いしれました。

実行委員会では、昨年10月に全国の若手花火師が腕を競う場の創出を目指して三陸花火競技大会を同運動公園で初めて開催しました。この大会には、県内外から約1万2,000人が来場しており、今年10月にも、2回目となる三陸花火競技大会の開催を予定しています。

■問い合わせ
三陸花火競技大会実行委員会
☎050-5526-3851



雨が降り続く中、夜空を彩る花火の様子(写真提供:三陸花火競技大会実行委員会)

話題

道の駅たのはた
リニューアル1周年田野畑村
TANOHATA

来場者で連日賑わう道の駅たのはたの様子(写真提供:田野畑村)

令和4年4月22日(金)、「道の駅たのはた」(愛称「思惟の風」)がリニューアルオープンから1周年を迎え、連日、地元の人や観光客など多くの方々に賑わっています。

昨年12月に三陸沿岸道路等の復興道路が全線開通したことなども後押しし、同道の駅の年間来場者は30万人超と好調な出足となっています。

同道の駅は、地元の児童生徒の教育活動の場や、住民と観光客との交流の場となるなど、地域振興の拠点として期待されています。今後も、地元産のヤマブドウを使ったレアチーズケーキやサイダーのほか、新たに地場産品を活用したオリジナル商品を開発して村の更なるPRにつなげる取組などを進めていくこととしています。

■問い合わせ 一般社団法人 思惟の風
☎0194-32-3555



開催

小・中学校教員
復興教育研修会 開催大船渡市
OFUNATO

令和4年4月20日(水)、大船渡市教育委員会は、今年度、市内小中学校に新たに着任した教員を対象とした東日本大震災津波の復興教育研修会を市役所で開催し、管外から転入した教職員や新採用教諭など12人が参加しました。

研修会の講師は、震災当時、市立大船渡小学校長として全校児童らの避難や安否確認に尽力し、現在は同市教育委員である柏崎正明さんが務め、「震災時を振り返って～3.11からの教育復興」と題し、地震発生から児童の避難誘導、全員の無事が確認されるまでを振り返り、児童の様子や心のケアについて講演しました。

出席者は、震災時に子どもたちの命を守った行動を振り返る講師の説明に熱心な表情で耳を傾け、震災の教訓伝承と命の大切さを学んでいました。

■問い合わせ 大船渡市教育委員会教育研究所
☎0192-27-8884



研修会で熱心に聴講する教職員
(写真提供:東海新報社)



さんりくイベント情報

令和4年度第1回いわて復興未来塾(併催:いわて三陸復興フォーラム
(沿岸報告会)&「いわての復興を自治の進化に」第9回シンポジウム)釜石市
KAMAISHIテーマ
「進化する伝承・発信と更なる交流に向けて」

開催日時

令和4年7月2日(土) 14:00から17:00まで

開催場所

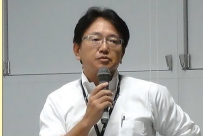

釜石情報交流センター「チームスマイル・釜石PIT」
多目的集会室(岩手県釜石市大町1丁目1番10)

参加定員

先着50名 ※盛岡発着シャトルバスの利用については、先着30名

1
目

プログラム

基調講演	事例報告	応援職員OB座談会
		
「デジタル技術を通じた東日本大震災津波の伝承」 株式会社IBC岩手放送 メディア戦略部 シニアマネージャー 相原 優一 氏	「後方支援拠点における 防災力向上に向けた伝 承発信の取組事例」 遠野市消防本部 消防長 千田 一志 氏	「東日本大震災津波を忘れない ～全国からの支援と交流の歩み～」 東京、大阪、長野、名古屋の応援職員OB による、交流の歩みを振り返る座談会 聞き手:株式会社高田松原 代表取締役社長 熊谷 正文 氏

プログラム

復興現場見学会



開催日時

令和4年7月3日(日) 10:00から12:00まで

開催場所

いのちをつなぐ未来館
(岩手県釜石市鶴住居町4丁目901番2)ほか

参加定員

先着50名 ※盛岡発着シャトルバスの利用については、先着30名

2
目

申込方法▶E-mailで申込み

AJ0001@pref.iwate.jp

※件名を「第1回いわて復興未来塾」として、下記の必要事項をご記入の上、申込みください。

- 氏名(ふりがな) ●所属・団体名等 ●住所
- 電話番号 ●メールアドレス ●参加希望日
- バス利用有無(乗車場所)

申込メロ ▶ 令和4年6月20日(月)

その他 ▶ 当日の様子は、岩手県公式インターネット番組・ニコニコ生放送「いわて希望チャンネル」でも御視聴できます。

●問い合わせ いわて未来づくり機構(岩手県復興防災部復興推進課) ☎019-629-6945

※新型コロナウイルス感染症の影響等により、中止や内容が変更となる場合があります。予め、問い合わせ先にご確認ください。



十府ヶ浦公園

「震災津波を忘れず、この地には住居を建てない」という教訓を伝える新しい公園



「十府ヶ浦公園」は、平成29年6月、都市公園事業により整備された「津波防災緑地」です。国道45号線沿いに広がる、東京ドームおよそ4個分、長さおよそ2キロにわたる広大な敷地には、多目的イベント広場や多目的活動広場、ほたて貝をモチーフにした展望休憩施設「ほたてんぼうだい」などが整備され、パークゴルフや散歩を楽しむ方、民間企業から寄贈された幼児用複合遊具で元気に遊ぶ子どもなど、村内外の多くの人のさまざまな活動の場として利用されています。また、令和元年からは、同公園を新たな観光スポットにするため、三陸鉄道、県、村が協働し、村民が参加してシバザクラの植栽に取り組んでおり、5月中旬から見ごろを迎えています。

最寄りの「道の駅のだ」（観光物産館ぱあぶる）では、レンタサイクルを貸し出していますので、公園でのサイクリングもおすすめです。

場所 岩手県九戸郡野田村大字野田第18地割
問い合わせ 野田村地域整備課 ☎0194-78-2932



十府ヶ浦公園(写真提供：野田村)



公園に咲くシバザクラ(写真提供：野田村)

久慈市
野田村★

盛岡市 宮古市

釜石市

いわてさんりくびと

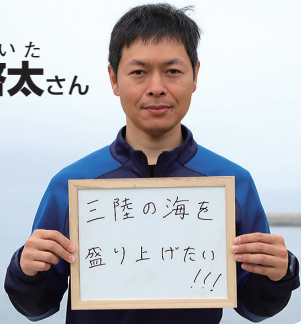
連載「いわてさんりくびと」では、被災地・三陸の復興に向け、熱い想いをもち、活躍する方々をご紹介します。第130回は**佐藤啓太**さんをご紹介します

NPOおはこぎき市民会議

理事長

さとう けいた

佐藤 啓太さん



～ 三陸の海を盛り上げたい!!! ～

PROFILE —— 愛知県出身。関東の大学を卒業後、首都圏のIT企業に就職。平成24年から不定期で震災ボランティア活動始める。平成29年、釜援隊（釜石リージョナルコーディネーター協議会）に入り、NPO法人で漁業振興や地域活性化に取り組む。令和3年3月で釜援隊の活動が終了し、現在は漁師の見習い中。

交流を深めて、釜石が好きに

東日本大震災津波発生後からボランティアに参加したいと考えていた佐藤啓太さんが東北に向かったのは、平成24年のことでした。釜石市でがれき撤去を手伝いながら、地元の人たちと交流を深めていきました。「新日鉄の歴史がある釜石には市外の人たちを歓迎する風土があり、本当に親切にしてください、どんどん好きになりました」と佐藤さんは言います。

平成29年には首都圏から釜石市に移り住み、釜援隊隊員として活動を始めます。派遣先のNPOおはこぎき市民会議では、復興まちづくりから漁業体験イベントの運営まで、様々な業務に取り組みました。「NPO関係者は漁師さんがほとんどで、漁業体験を通して接するうちに、仕事の

仕方や生き方が格好いいなとひかれていきました」と振り返ります。

一次産業の魅力を発信

令和3年に釜援隊の活動が終了し、佐藤さんはNPOの活動を継続しながら漁師の道へと踏み出しました。「実際に働いてみて、一次産業はお客さんに喜んでもらえたり、自ら食べることができたり、成果が見えやすいところが魅力だと感じています。将来はホタテやワカメなどの養殖にも取り組みたいです」と語ります。

さらに、仕事と子育ての両立のしやすさも実感しているそうです。「漁師の就業時間は朝が早い分、終了時間も早く、子どもを保育園に送迎することもできます。働き方の自由度の高さなども発信していきたいです」。佐藤さんの挑戦は始まったばかりです。

岩手県の被害状況

令和4年4月30日現在

- 人的被害 死者：5,145人（余震、震災関連死を含む）
行方不明者：1,110人
- 建物被害（住家のみ、全半壊）26,079棟
被害状況等の詳細／義援金・寄附金の募集等

[いわて防災情報ポータル](#)

[検索](#)

皆様のご支援、ありがとうございます

令和4年4月30日現在

- 義援金受付状況 約188億2,161万円(98,629件)
 - 寄附金受付状況 約203億4,612万円(14,618件)
 - いわての学び希望基金(※)受付状況 約104億9,614万円(26,630件)
- ※被災した子どもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。



いわて震災津波アーカイブ～希望～

約24万点の資料を検索・閲覧できます。

[いわて震災津波アーカイブ](#)

[検索](#)



いわて復興だより 第184号

令和4年5月31日発行 企画・発行／岩手県復興防災部復興推進課 ☎019-629-6945 編集・校正／永代印刷株式会社